

大学生の学習行動、生活行動

両角亜希子（東京大学）

データ、課題

<データ>

▶ 『全国大学生調査』

- ▶ 東京大学 大学経営・政策研究センターが2007年に実施
- ▶ 127大学 48,233名の大学生が回答
- ▶ 今回は人文社会、1ー3年生を分析
- ▶ 全体での議論のために、偏差値ランク別の平均の姿を検討

<課題>

- ▶ 学習時間は何によって決まっているのか
- ▶ 学習時間と生活時間全体との関係はどうか
- ▶ 過ごし方は学生の成長に影響しているか

分析モデル

- 多様性の増大
- 学力低下
- 不明確な学習モチベーション

- 学習時間
- 生活時間

学生特性

大学特性

学生のエンゲージメント

学生の成長

- 伝統的ディシプリンに基づく
- 教育のターゲットは狭く定義される傾向

- 能力の自己評価

ティーチングとラーニングのマッチング



学生類型

【軸1】将来のやりたいことの明確さ 「卒業後にやりたいことは決まっている」

Yes
(明確)



【軸2－1】授業とやりたいことの関係
「大学での授業はやりたいことと密接に関わっている」

Yes
(関係している)

高同調型

31.3%

No
(関係していない)

独立型

19.5%

No
(不明確)



【軸2－2】授業への期待
「授業を通じてやりたいことを見つけたい」

Yes
(期待している)

受容型

34.8%

No
(期待していない)

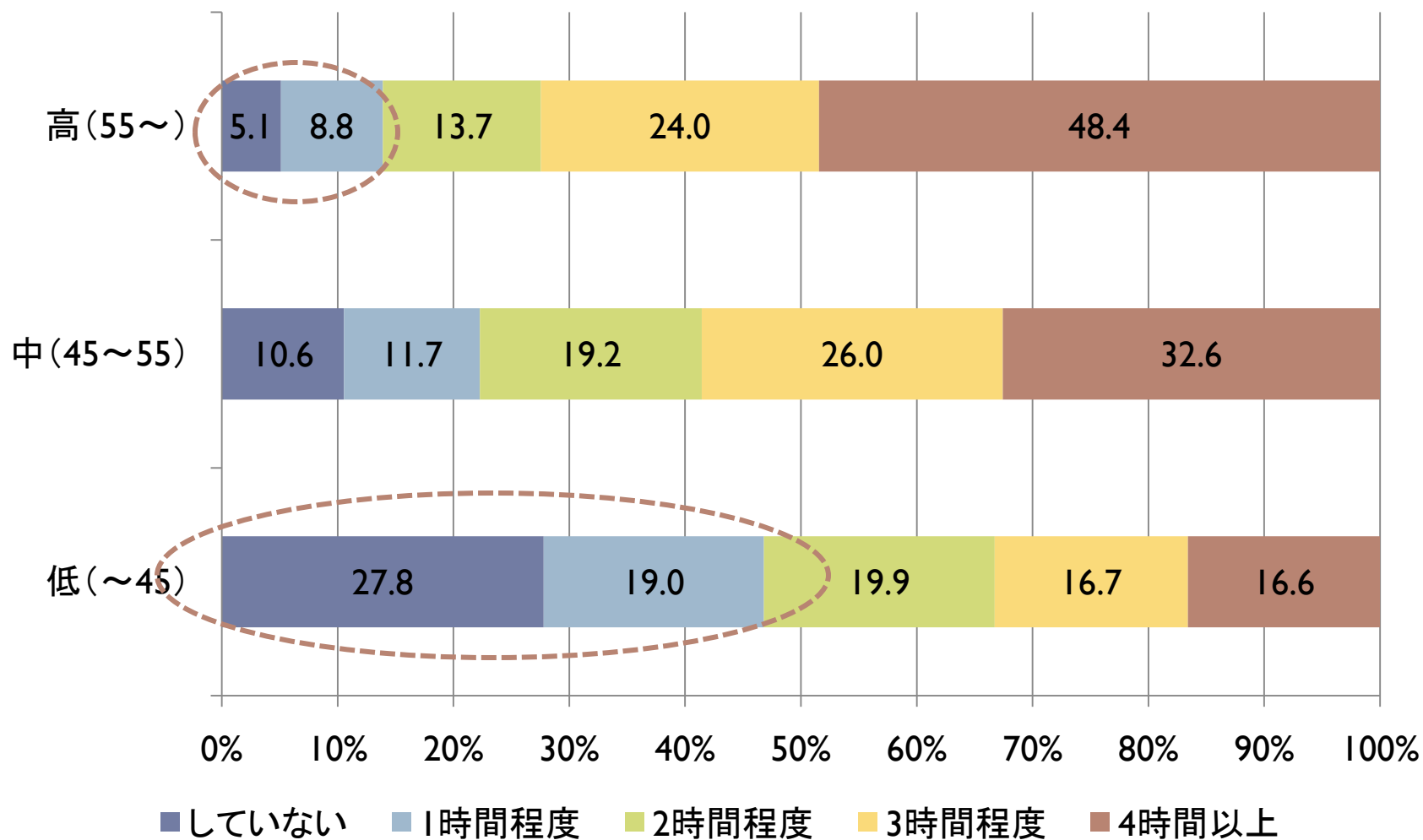
疎外型

14.4%

- ・金子元久 2007『大学の教育力—何を教え、学ぶか』ちくま新書をもとに作成・
- ・Yes:「よくあてはまる」+「ある程度あてはまる」 No:「あまりあてはまらない」+「全くあてはまらない」
- ・%は今回の対象学生全体の数値(参考のため)

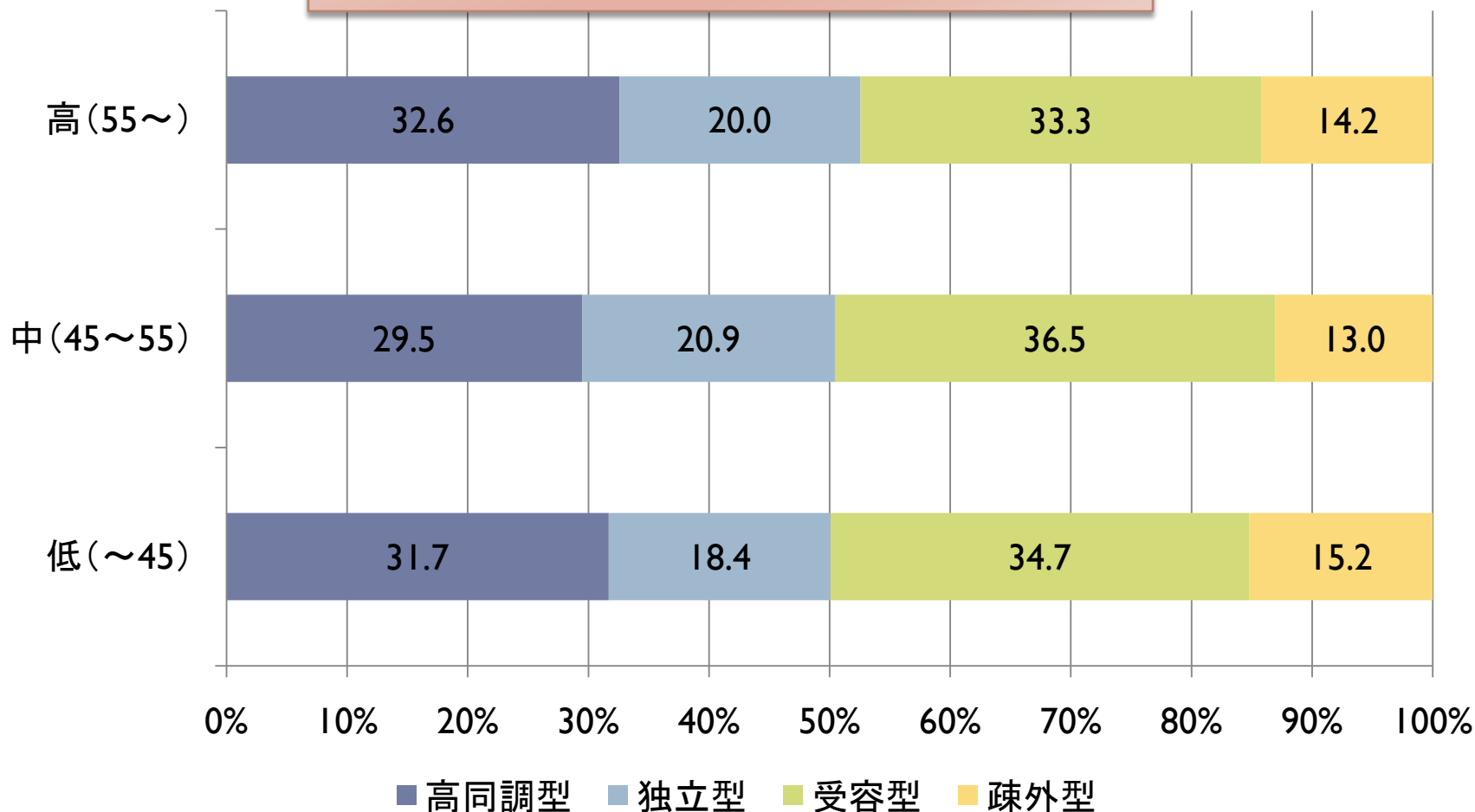
偏差値ランク別特徴①

高校3年生の頃の1日の勉強時間

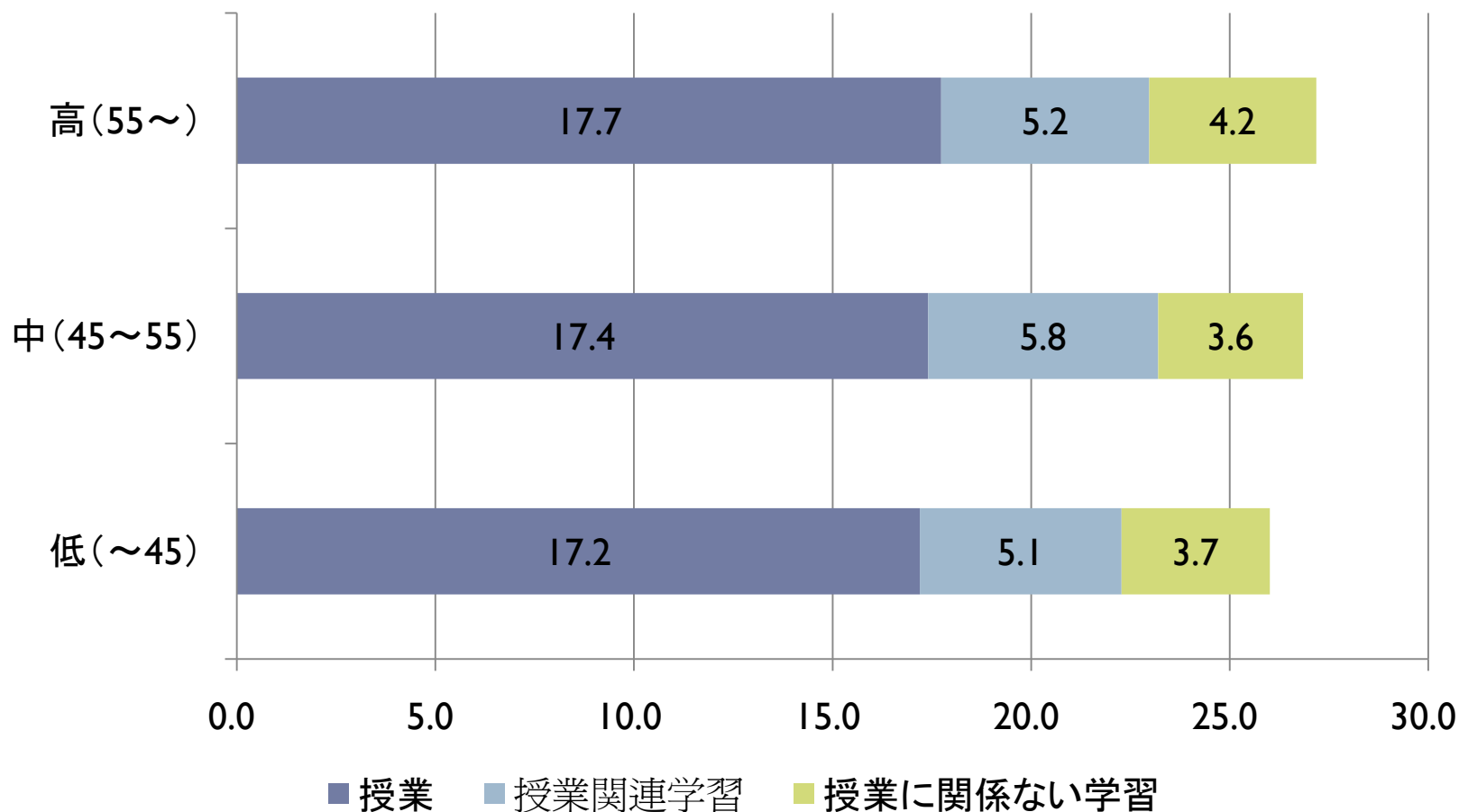


偏差値ランク別特徴② 学生のタイプ

●偏差値ランクと学生類型は無関係

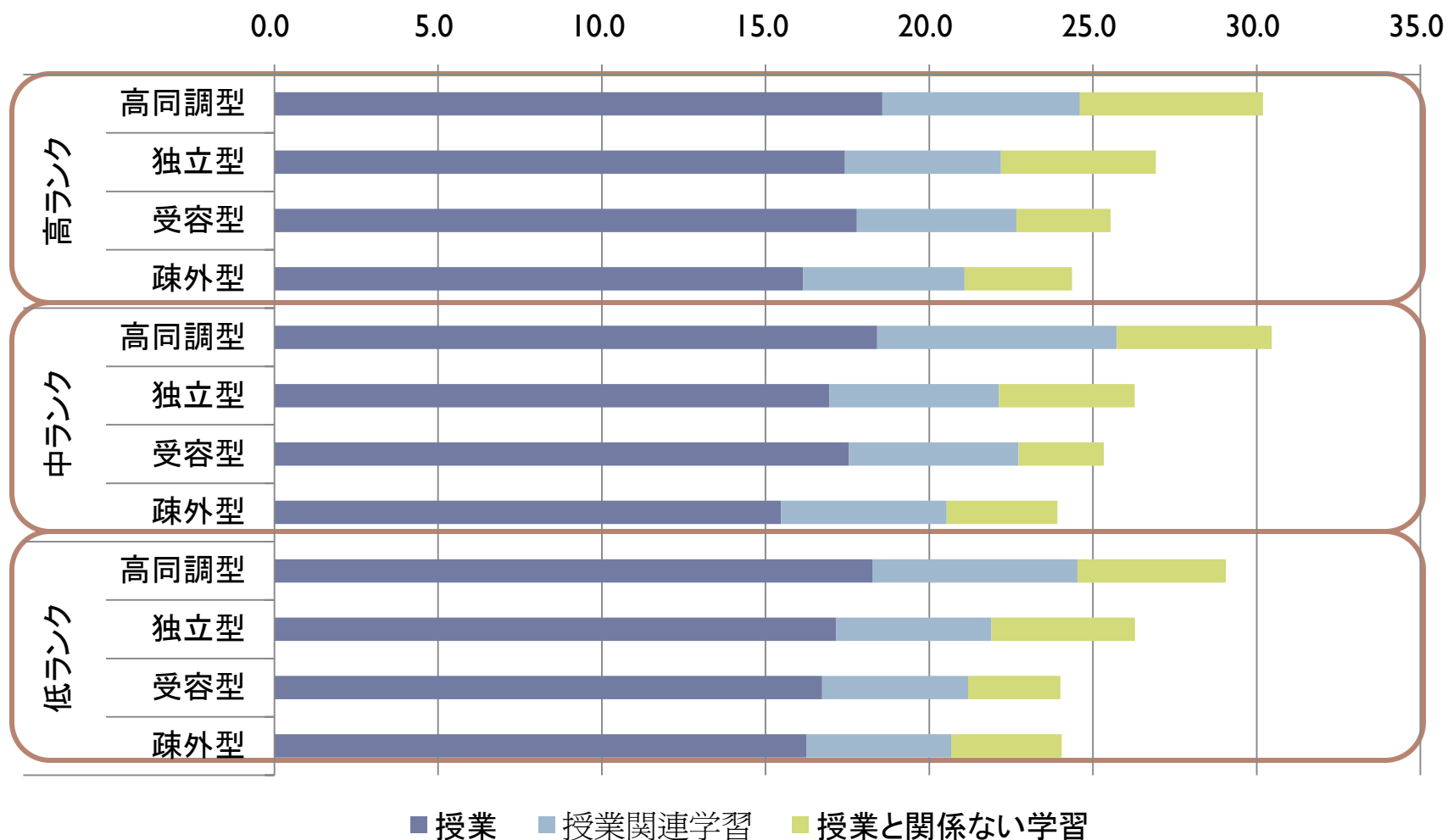


偏差値ランク別特徴③ 学習時間



- 偏差値ランク別の差は小さい
- 高ランク大学の学生が予習復習に熱心なわけではない

偏差値ランク、学生類型別学習時間



●学生の志向性の影響のほう大きい



授業方法の学習時間への影響

●授業

学生配慮型

統制型

双方向型

	低ランク	中ランク	高ランク
興味わくよう工夫	0.008	0.029	0.063 ※※
理解しやすく工夫	0.019	-0.015	0.018
補助的指導あり	-0.006	0.021	-0.021
出席重視	0.030 ※	0.010	0.062 ※※
中間課題あり	0.056 ※※※	0.032 +	-0.006
コメント返却あり	0.011	0.046 ※	-0.026
意見や考え求められる	0.043 ※※※	0.032	0.028
グループワークあり	0.010	-0.018	0.012
調整済み R2 乗	0.011	0.006	0.010
F 値	8.313 ※※※	3.650 ※※※	5.071 ※※※

- 統制型の効果が大きい
(低ランク、高ランク)
- 大学によって効果が異なる

(注) ※※※ は0.1%水準で有意
 ※※は1%水準で有意、※は5%水準で有意
 +は10%水準で有意(以下同様)

授業方法の学習時間への影響

●授業関連学習

	低ランク	中ランク	高ランク
	ベータ	ベータ	ベータ
興味わくよう工夫	0.040 ※	0.050 ※	0.088 ※※※
理解しやすく工夫	-0.011	0.005	0.021
補助的指導あり	0.042 ※※	0.062 ※※	0.002
出席重視	-0.034 ※	-0.026	-0.026
中間課題あり	0.016	0.048 ※※	0.013
コメント返却あり	0.093 ※※※	0.095 ※※※	0.025
意見や考え求められる	0.100 ※※※	0.058 ※※	0.071 ※※
グループワークあり	0.071 ※※※	0.041 ※	0.029
調整済み R2 乗	0.056	0.046	0.023
F 値	41.353 ※※※	22.274 ※※※	10.462 ※※※

- 双方向型の効果が大きい。とくに低ランク大学
- 補助的指導は低・中ランク、興味わく工夫は高ランクで効果。

授業方法の学習時間への影響

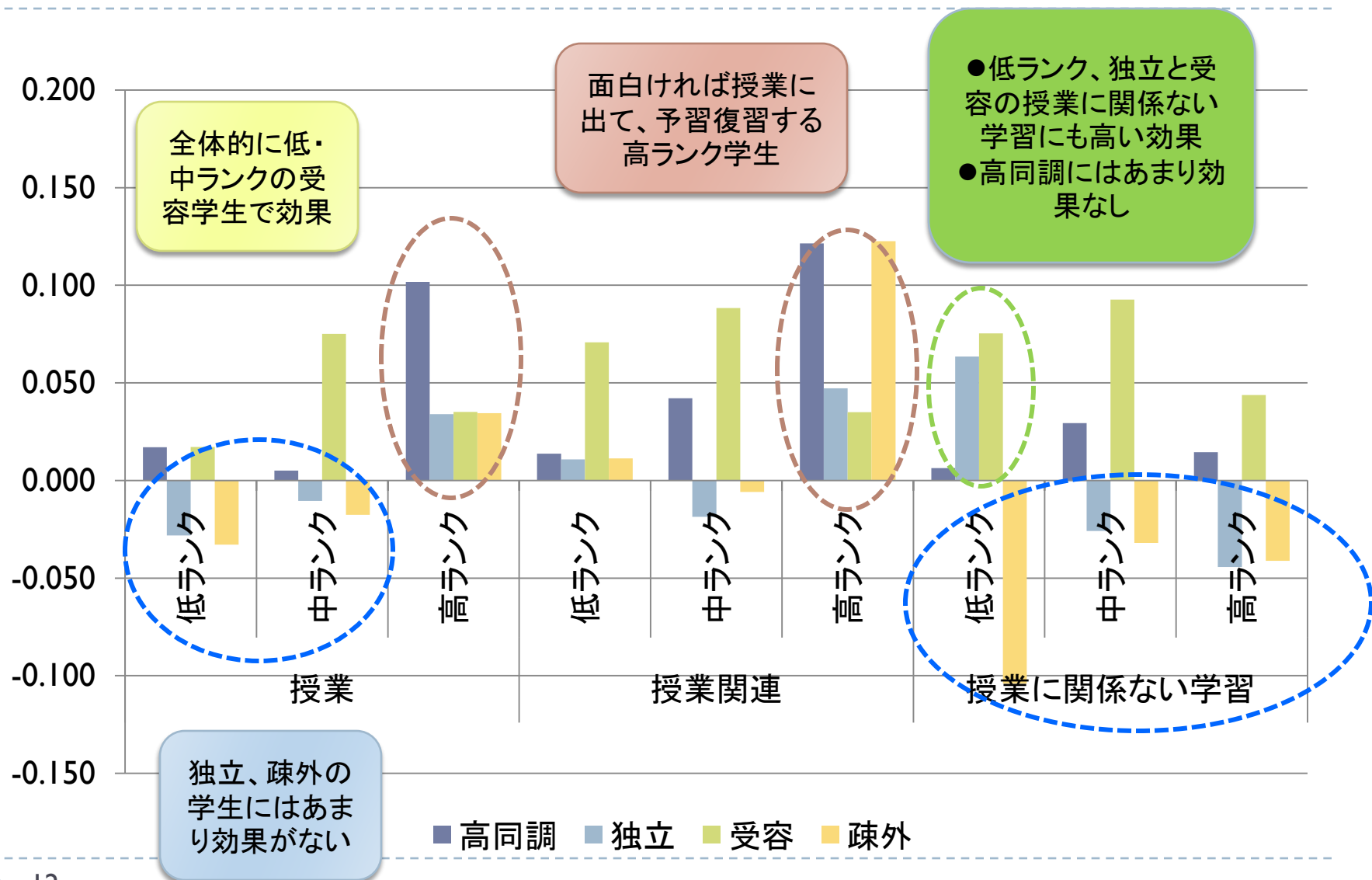
●授業に関係ない学習

	低ランク	中ランク	高ランク
	ベータ	ベータ	ベータ
興味わくよう工夫	0.030	0.030	0.016
理解しやすく工夫	-0.027	-0.016	0.034
補助的指導あり	0.050 ※※	0.080 ※※※	0.001
出席重視	-0.001	-0.007	-0.094 ※※※
中間課題あり	-0.022	-0.003	0.003
コメント返却あり	0.015	0.038 ※	0.010
意見や考え求められる	0.064 ※※※	0.025	-0.002
グループワークあり	0.050 ※※	0.014	-0.021
調整済み R2 乗	0.016	0.013	0.009
F 値	11.831 ※※※	6.620 ※※※	4.447 ※※※

- 低ランクでは双方向型の効果が大きい
- 低・中ランクでは補助的指導が授業に関係ない学習にも効果
- 高ランクでは出席重視がマイナスに働く

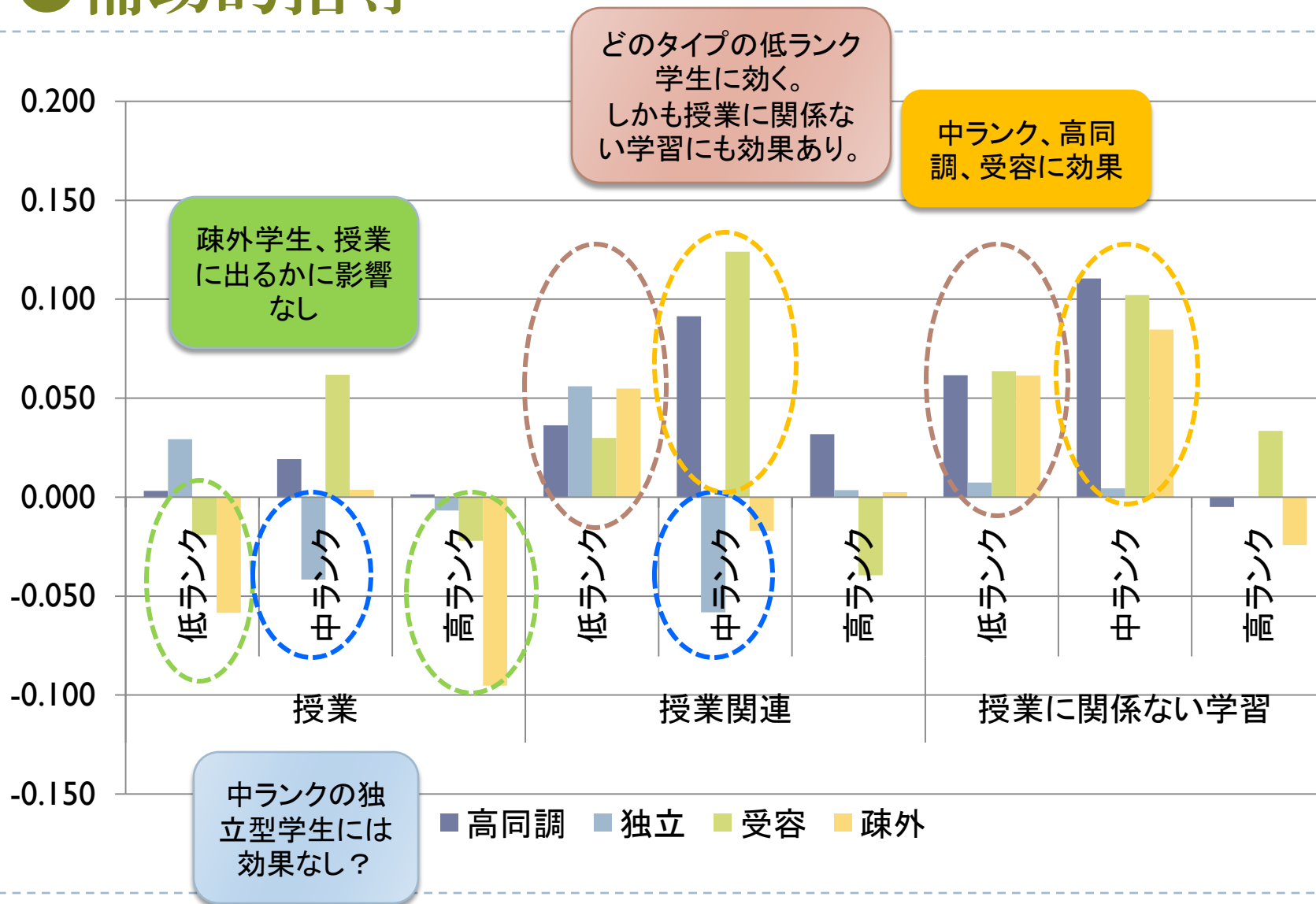
誰に、どの学習時間に効果的か

●興味をわくよう工夫



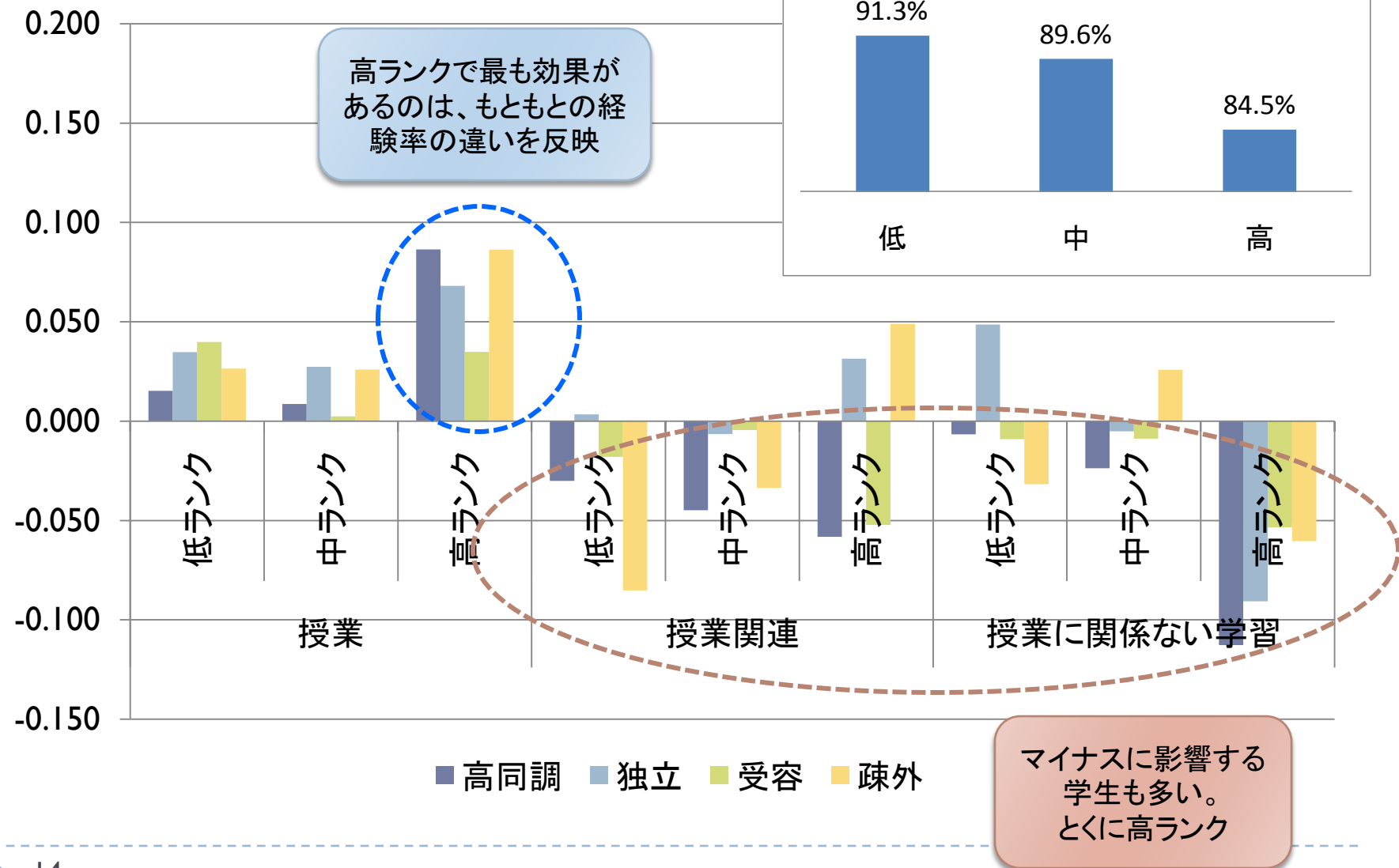
誰に、どの学習時間に効果的か

●補助的指導



誰に、どの学習時間に効果的か

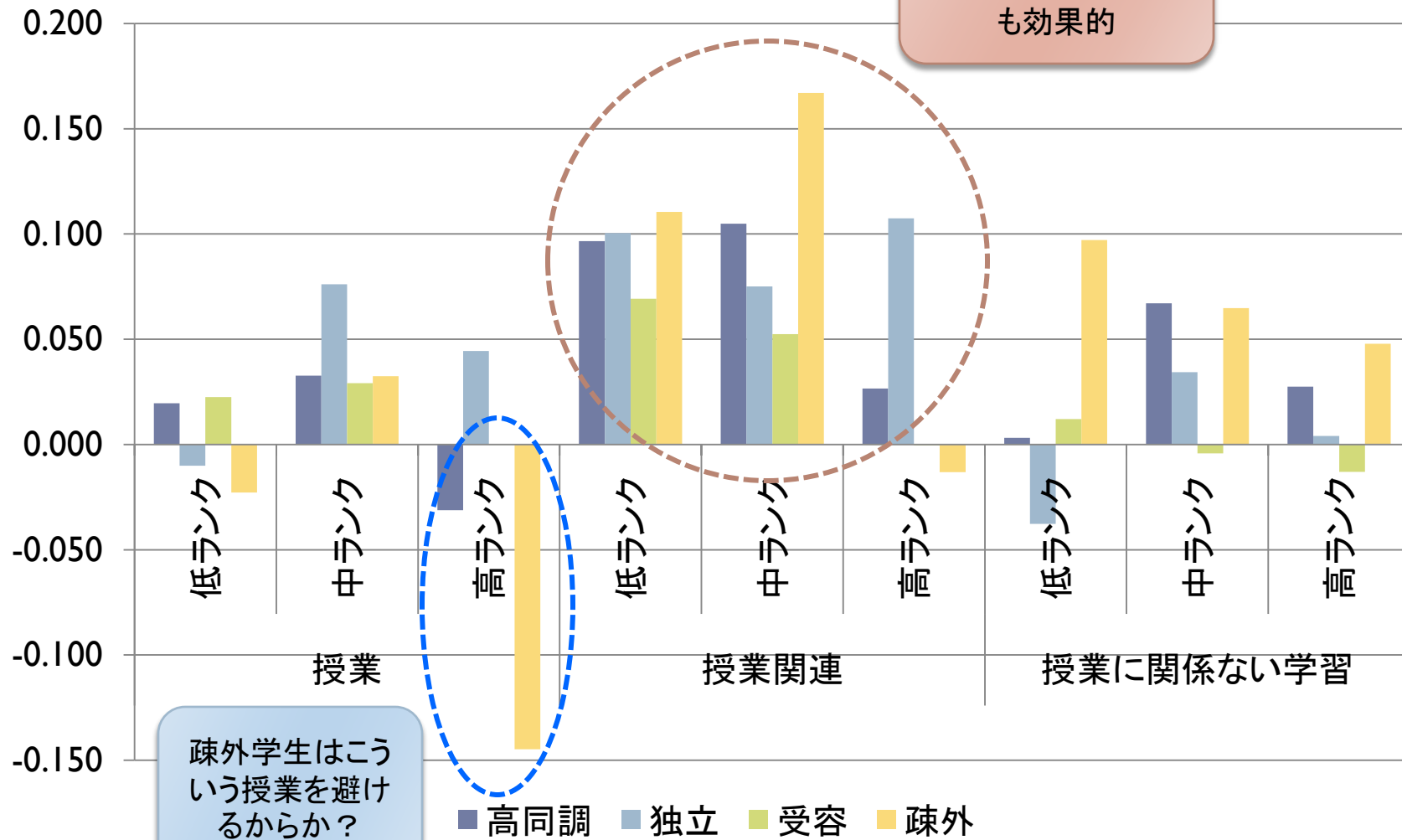
●出席重視



誰に、どの学習時間に効果的か

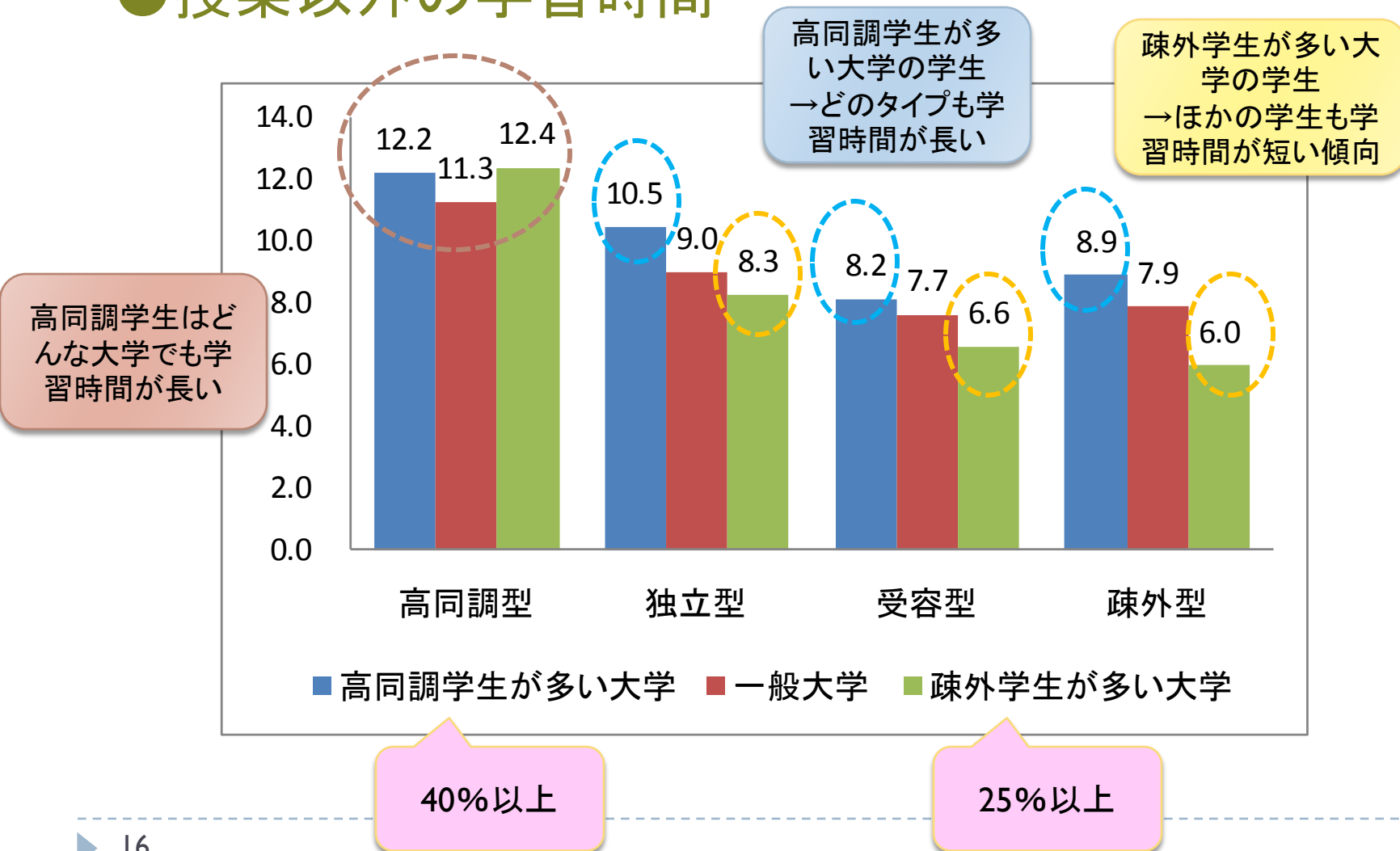
●コメント返却

授業関連学習に、
どのランク、学生に
も効果的



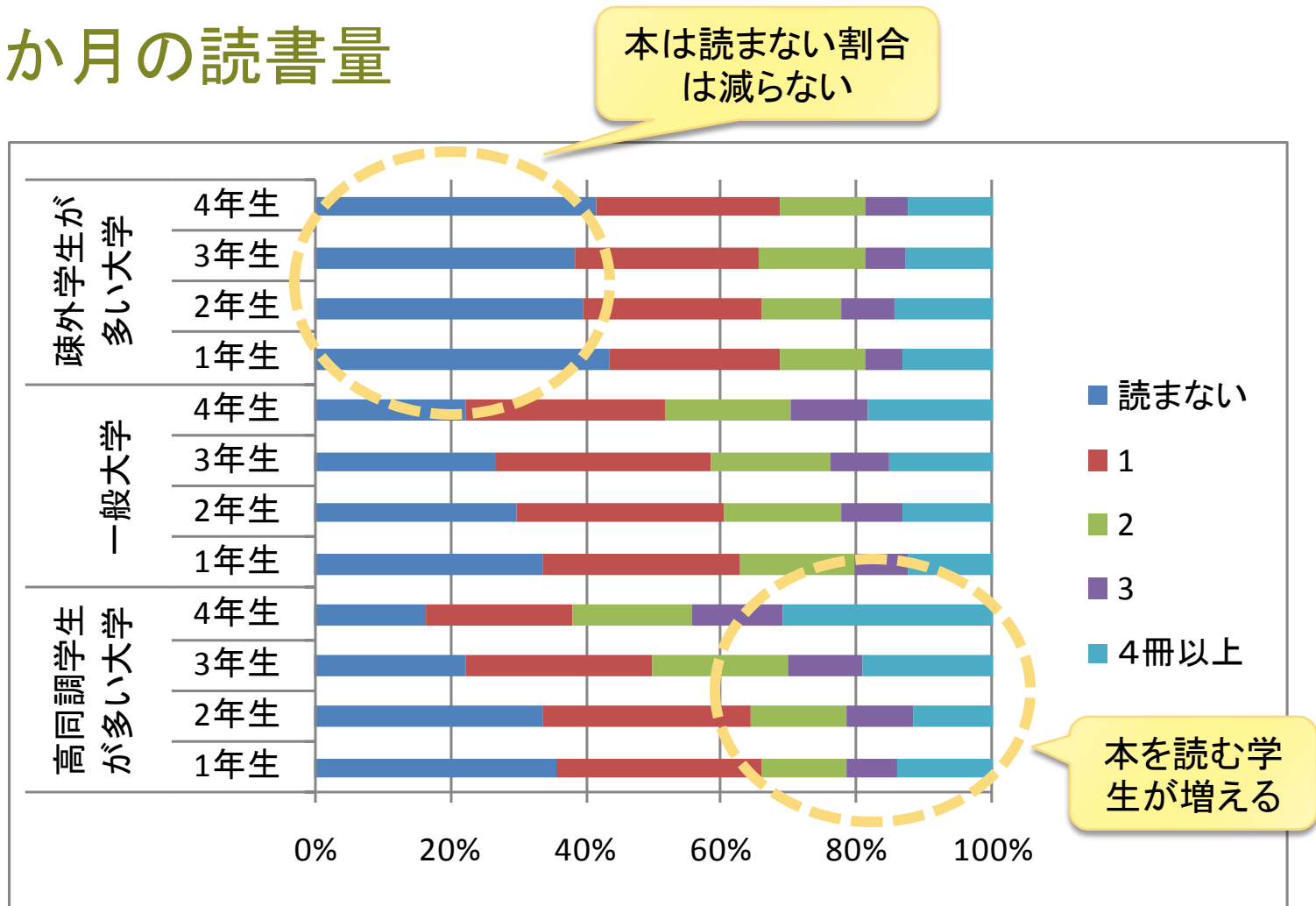
教育環境要因 ピア効果①

●授業以外の学習時間



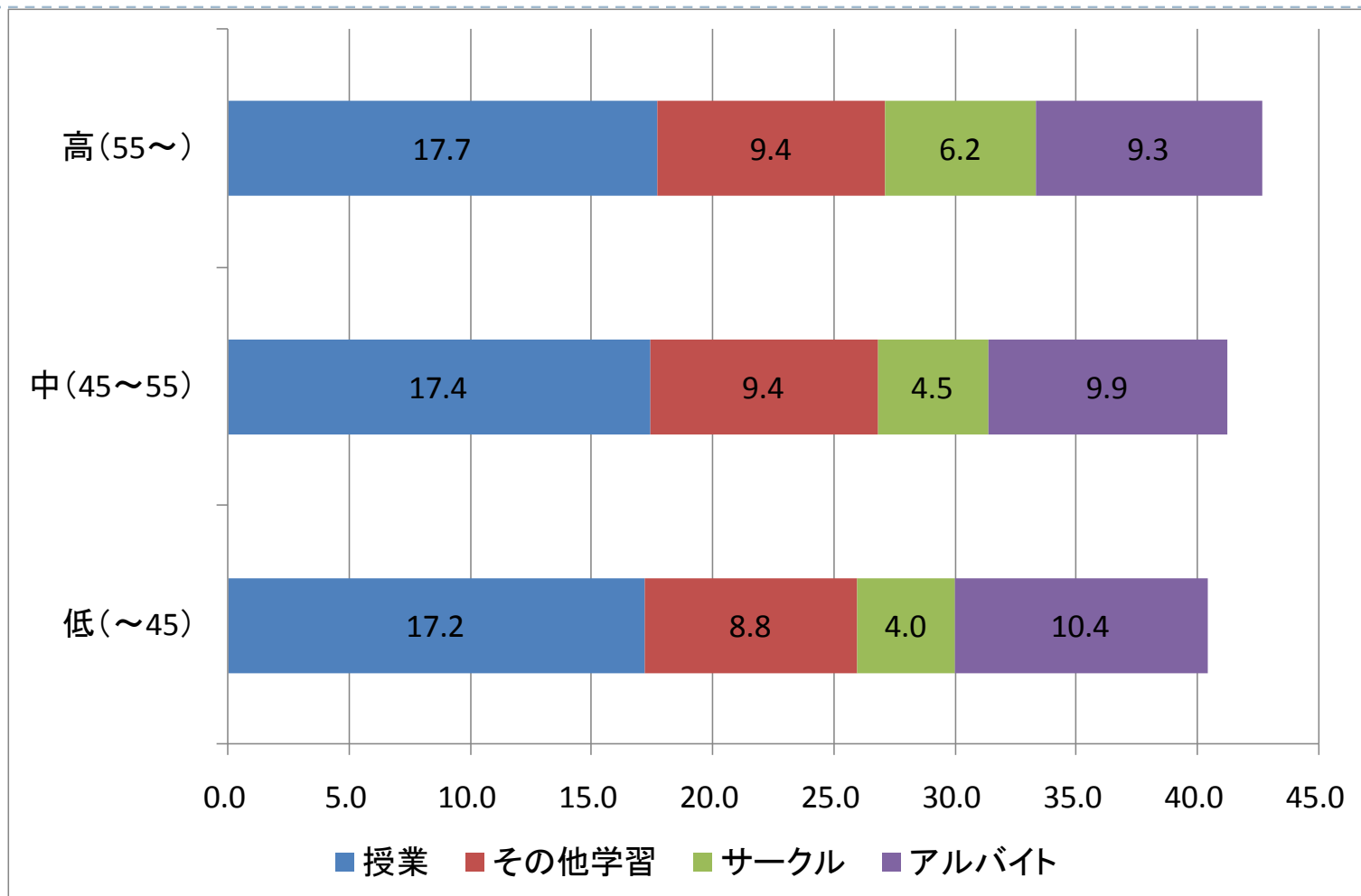
教育環境要因 ピア効果②

●1か月の読書量



偏差値ランク別特徴

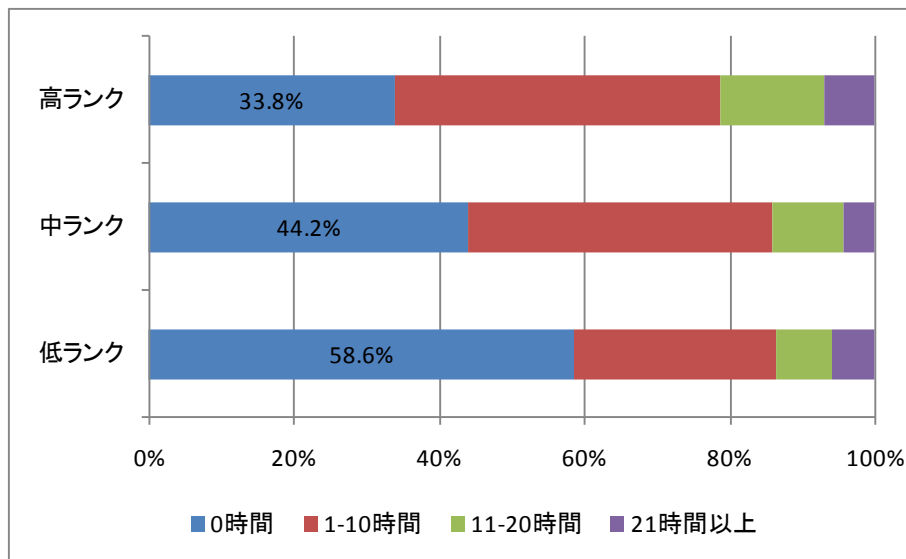
●生活時間全体



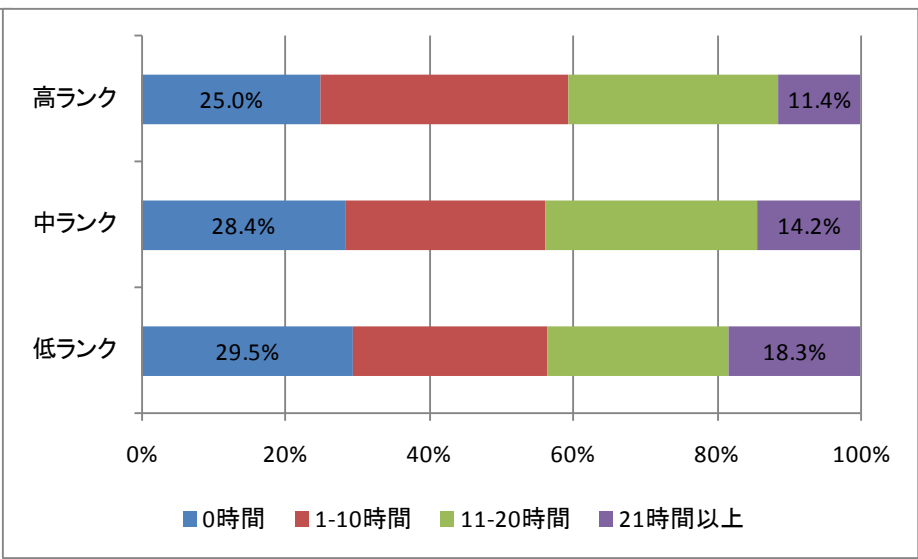
●高ランク大学で最も長い、学習時間が長いわけではない

違いを生むのはサークル、アルバイト

サークル



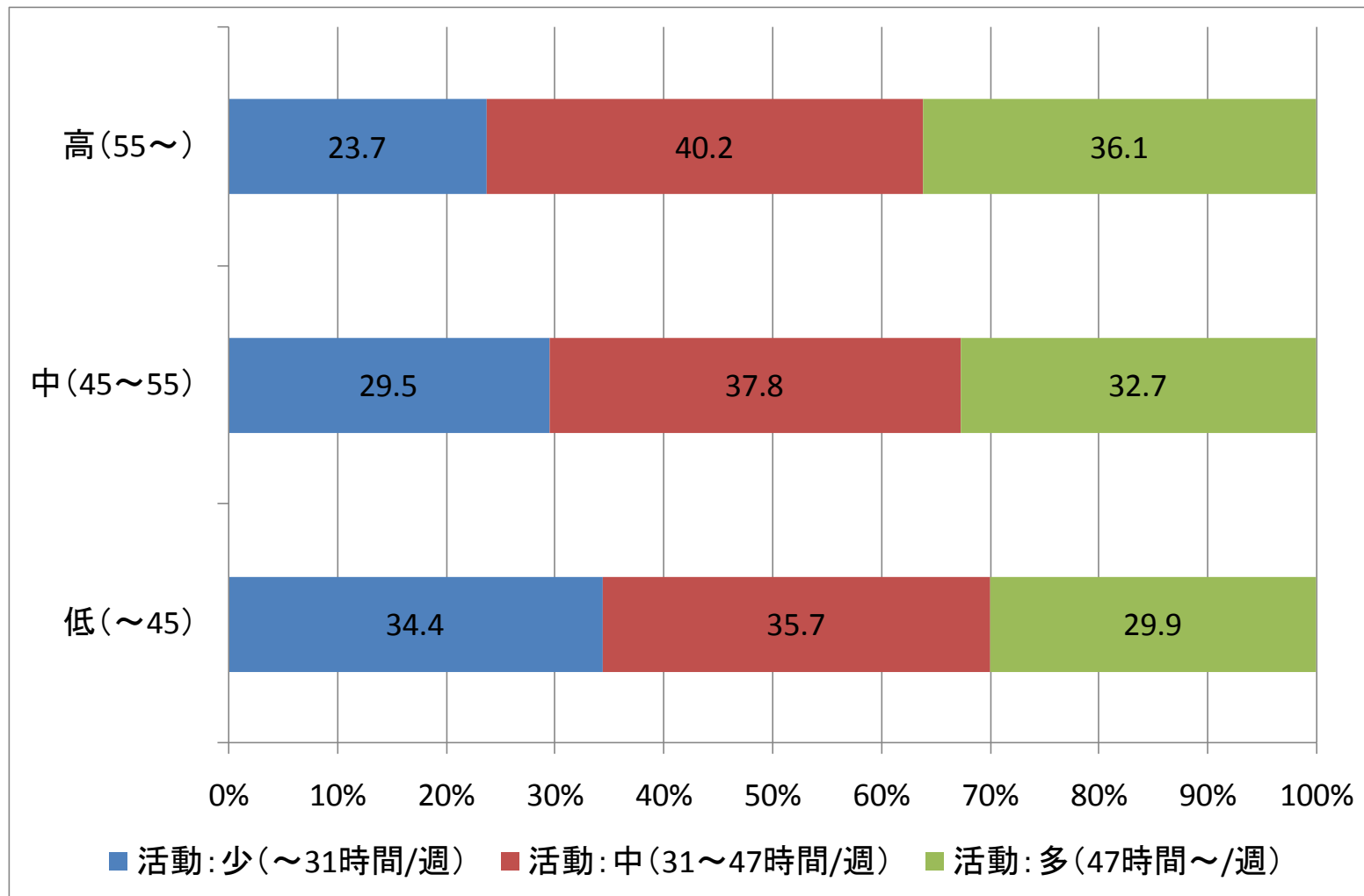
アルバイト



低ランク大学の学生の6割は
サークルをしていない

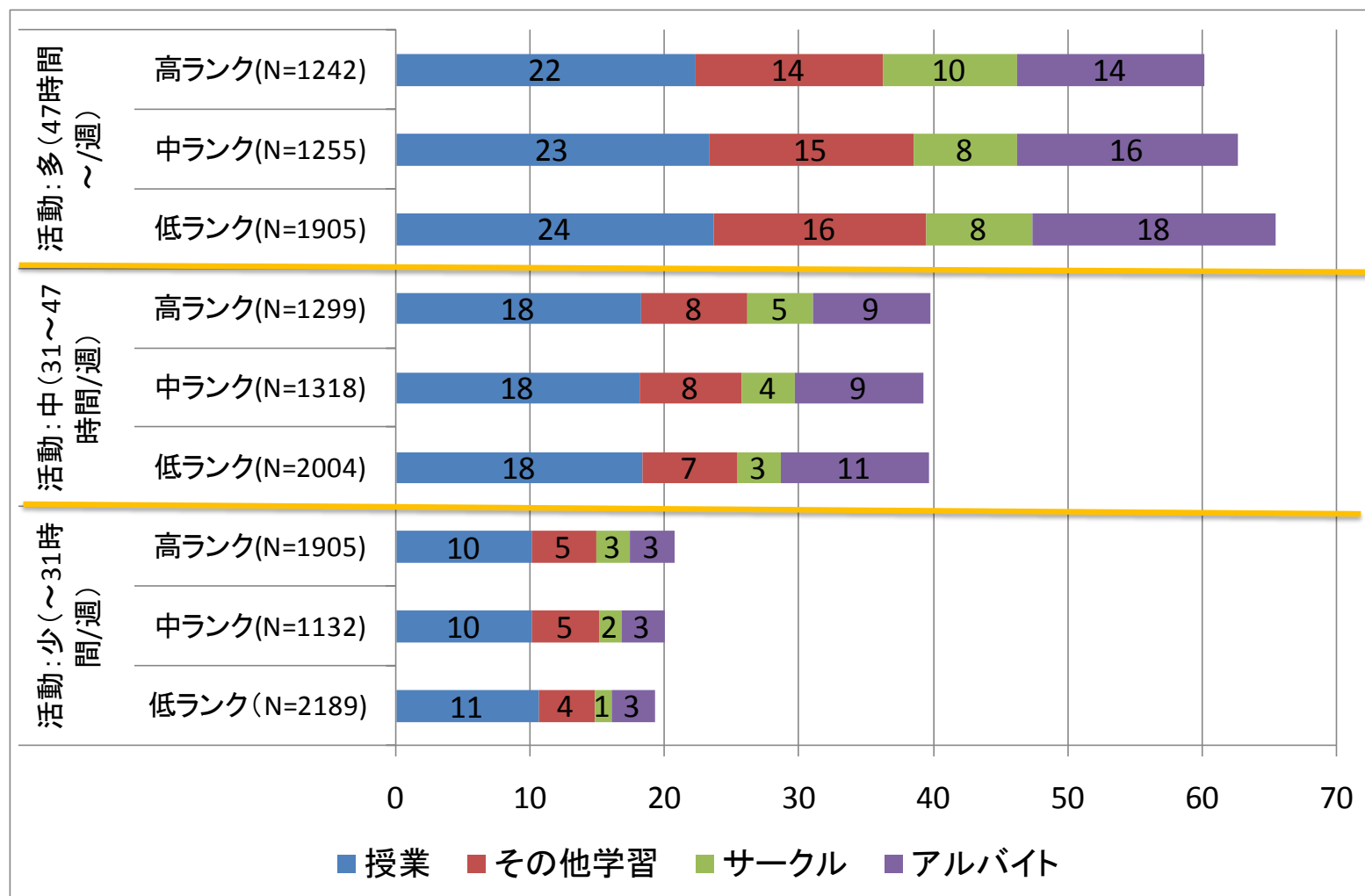
週21時間以上働く学生は
低ランク大学の学生の2割弱

同じランクでも、活動量にばらつき



●活動:少はどのグループにも存在するが、低ランクで最も多い

どの活動が多い／少ないのか



時間の使い方の相関係数

- 活動的な人はすべて活発
- サークルやアルバイトが学習の疎外になっているわけではない

相 関 係 数

		授 業	そ の 他 の 学 習	サークル	アルバイト
授 業	Pearson の相関係数	1	.259**	.114**	.189**
	有意確率 (両側)		.000	.000	.000
	N	14338	13838	14001	14052
そ の 他 の 学 習	Pearson の相関係数	.259**	1	.224**	.114**
	有意確率 (両側)	.000		.000	.000
	N	13838	13942	13726	13733
サークル	Pearson の相関係数	.114**	.224**	1	.071**
	有意確率 (両側)	.000	.000		.000
	N	14001	13726	14152	13941
アルバイト	Pearson の相関係数	.189**	.114**	.071**	1
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	
	N	14052	13733	13941	14209

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

偏差値ランク別に検討しても、どのグループでも
プラスで有意な相関がみられた

活動時間が短いのは誰か①

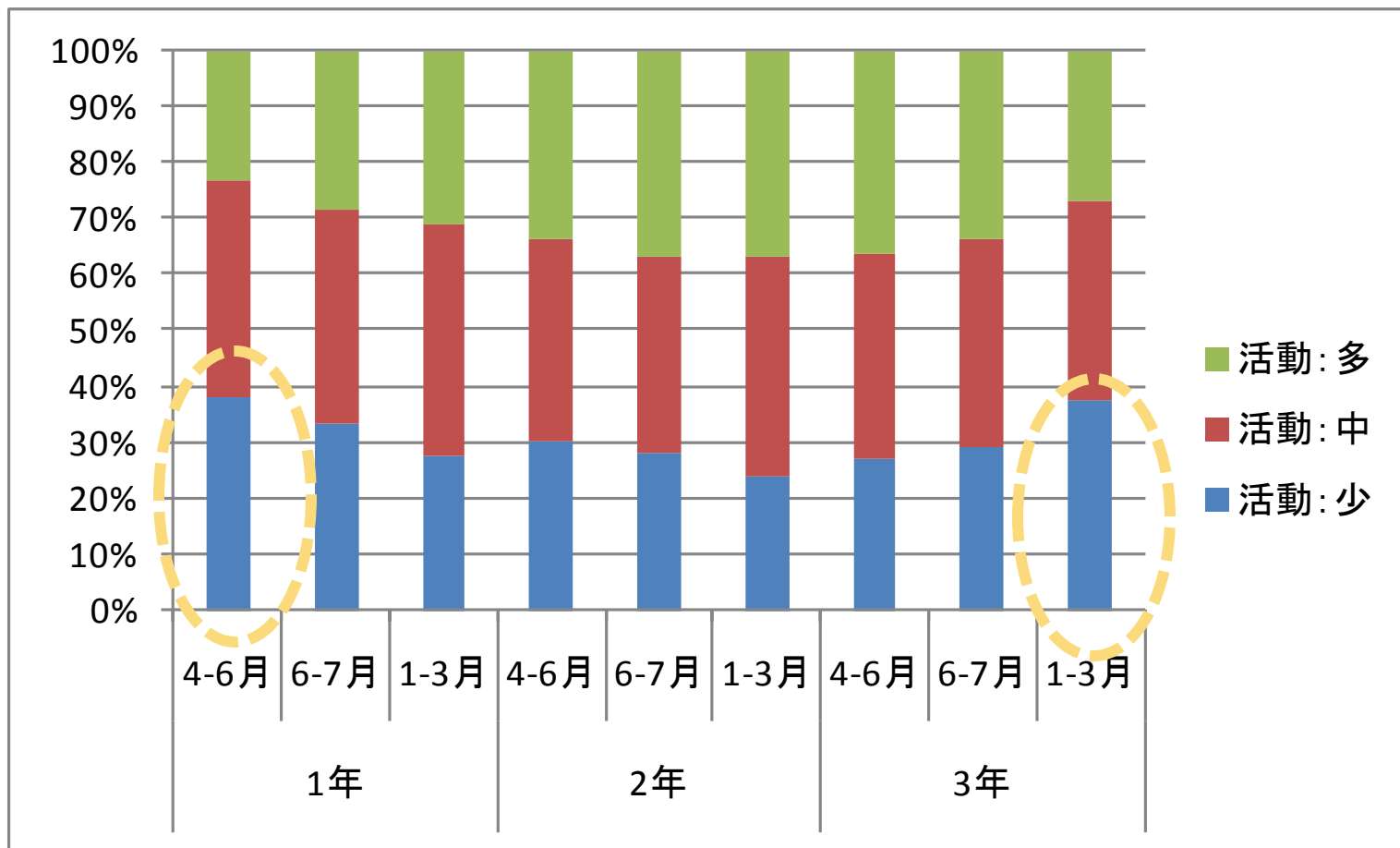
		全体	低ランク	中ランク	高ランク
性別		※※※ 男性が多い	+ 男性が多い	※ 女性が多い	※ 女性が多い
居住形態		※※※ 自宅が多い	※※※ 自宅が多い		
高3の勉強時間		※※※ していない学生が多い	※※※ していない学生が多い	※ していない学生が多い	※※ していない学生が多い
志望順位					
学生類型		※※※ 疎外、受容が多い	※※※ 疎外、受容が多い	※※※ 疎外、受容が多い	※※※ 疎外、受容が多い
授業経験	興味わく工夫	※※※ あまり経験していない	※※※ あまり経験していない	※ あまり経験していない	※ あまり経験していない
	出席重視				+ よくあったが少ない
	コメント返却	※※※ あまり経験していない	※※※ あまり経験していない	※ あまり経験していない	
生活に熱意がわからない		※ よくあるが若干多い		※ よくあるが若干多い	※ よくあるが若干多い
授業についていけない		※※ よくあるが若干多い	※ よくあるが若干多い		
授業に興味がない					
友達と話す頻度		※※※ 少ない	※※※ 少ない	※※※ 少ない	※※※ 少ない

クロス分析の結果の概略、活動：少グループの特徴

※※※は0.1%水準、※※は1%水準、※は5%水準、+は10%水準で有意。空欄は有意でない。

活動時間が短いのは誰か②

学年、回答時期との関係

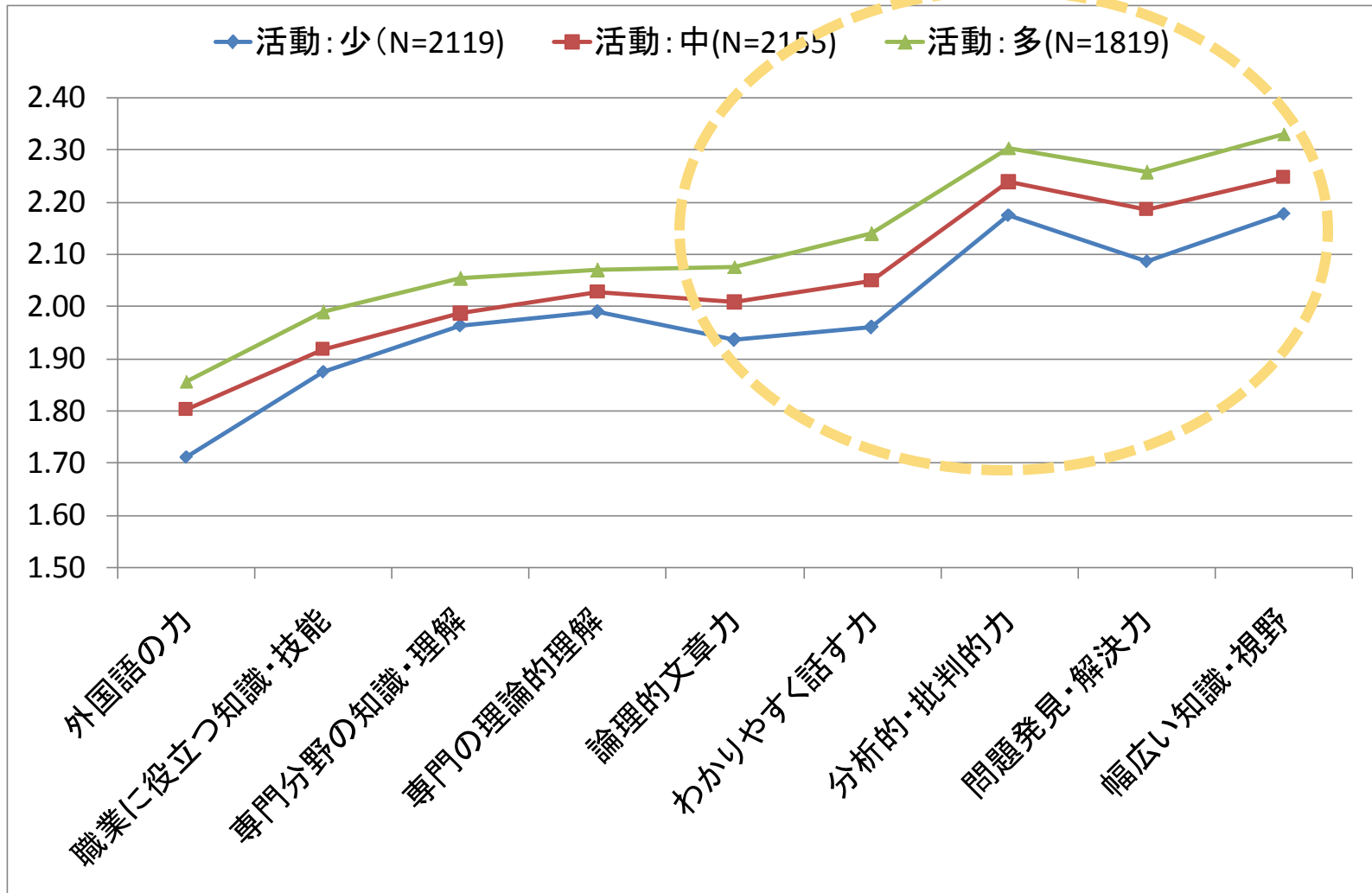


- 入学後数カ月の時点
- 3年の冬(就職活動)



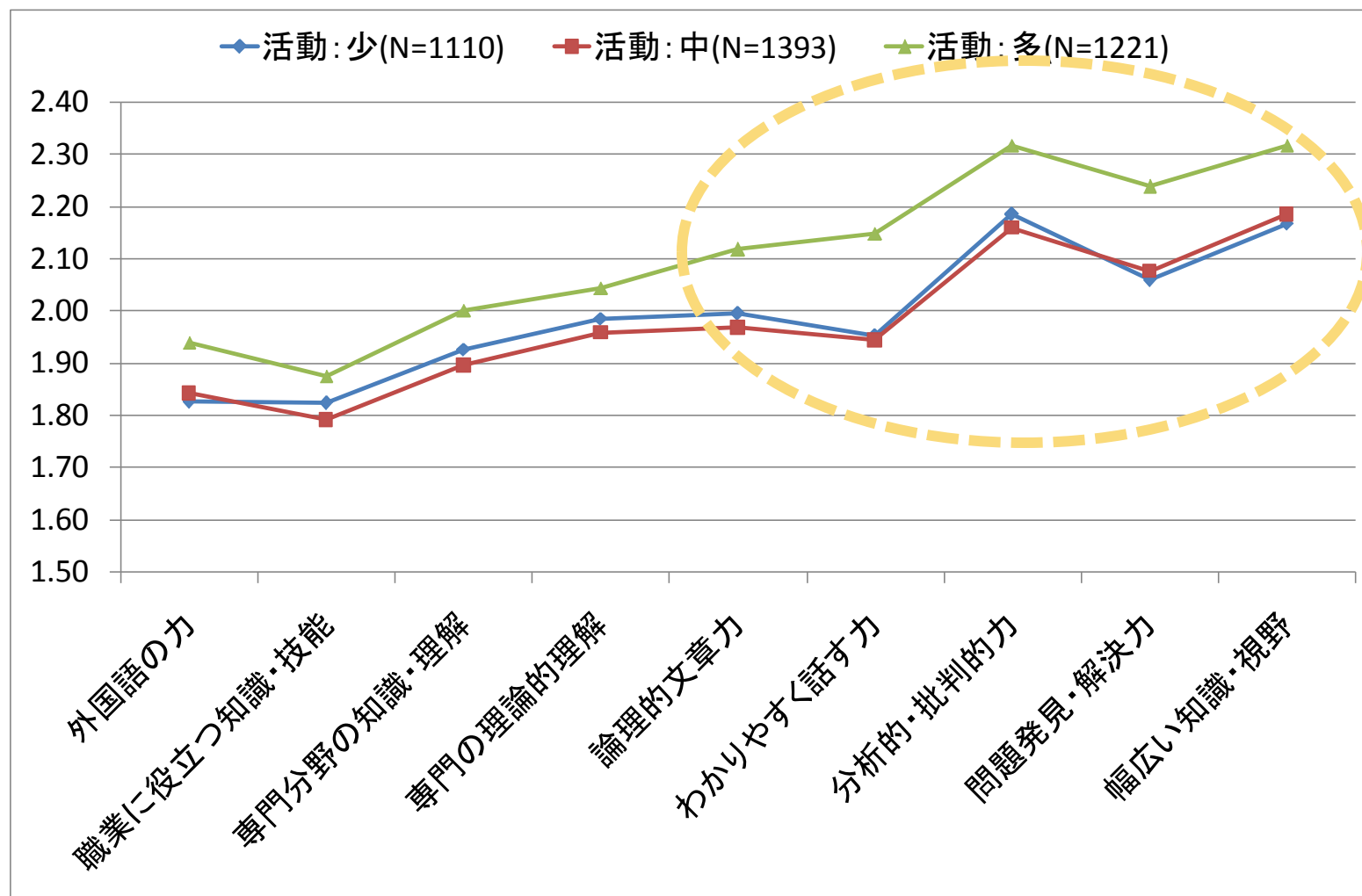
活動時間と能力の自己評価

<低ランク大学>



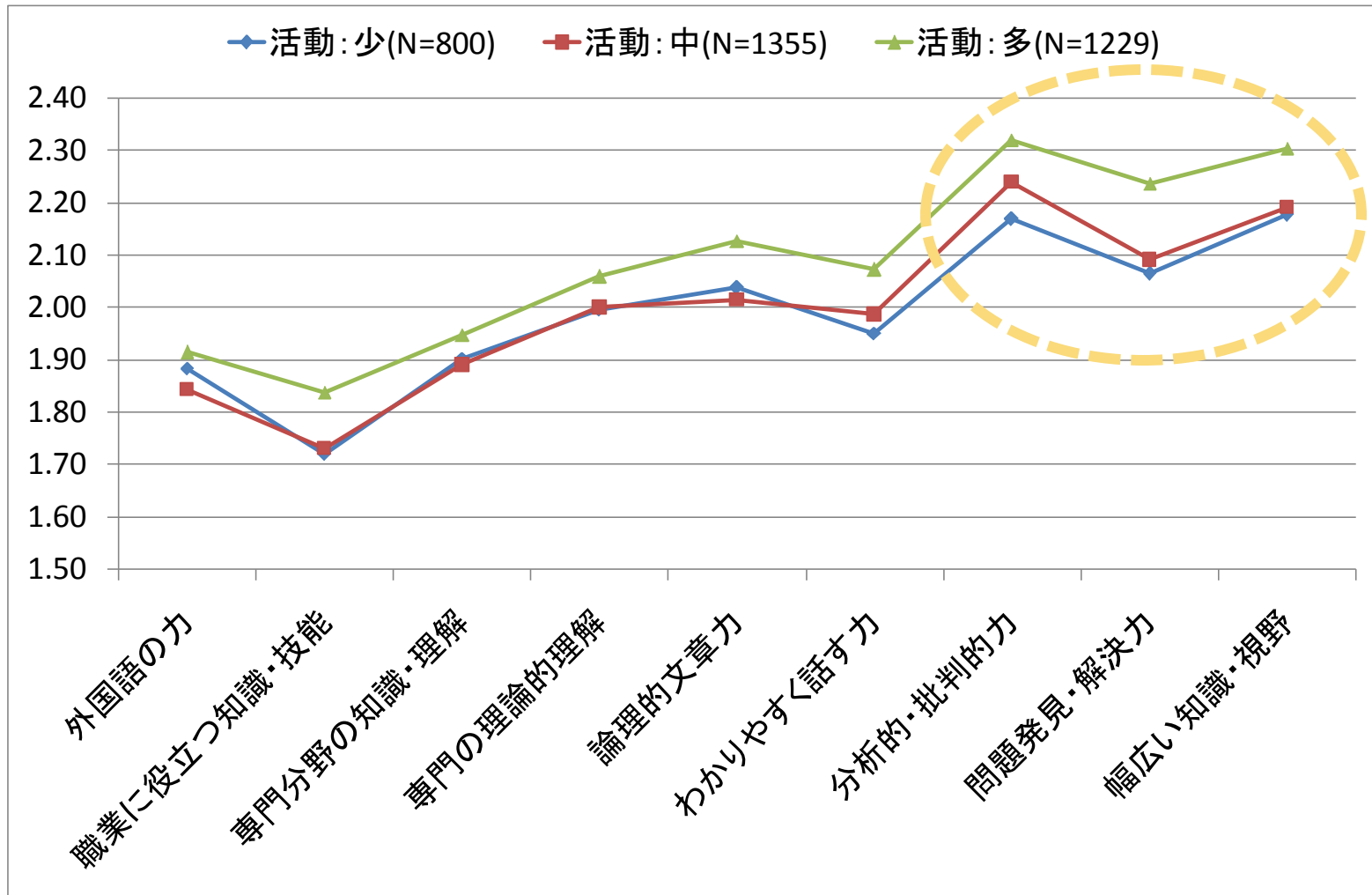
活動時間と能力の自己評価

<中ランク大学>



活動時間と能力の自己評価

<高ランク大学>



まとめ

▶ 学習時間

- ▶ 偏差値が高いグループで最も高いが、グループ間の違いはと小さい。学習関連時間は高ランクでも長くない。
- ▶ むしろ、学生の志向性の影響、授業の方法の影響が大きい（とくに双方向型授業）。
- ▶ ただし、タイプによって、影響の与え方は異なる。

▶ 生活時間

- ▶ 学習とほかの活動は、正の相関。つまり、活動的な人は何に対しても活動的な傾向。
- ▶ こうした活動量の違いは、能力の獲得（とくに一般的能力）に大きく影響。ただし、効果については、同一人物の変化で追うのが有効。次の課題にしたい。
- ▶ 今回の分析はあくまで平均的な姿であることに留意。